ESSAY

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。
氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#38
コモ湖のAiron Marine

コモ湖と Italian Boat Builder

ミラノの北50kmに位置するコモ湖はイタリアン ボート ビルダーの揺籃の地である。

150年の歴史を誇るクランキ（Cranchi）はコモ湖の西岸中部トレメッツォでその産声をあげた。コモ湖周辺には平地が少ないため、生産の拡大に伴いコモ湖北部東のヴァルテリーナ渓谷の平地にボートヤードを移している。コロンボ（Colombo）は2007年からはグループ サルニコ（Group Sarnico）の傘下に入ったが、1954年の創設の頃はコモ湖で生産を始め、その後コモ湖東に位置するイゼーオ湖に拠点を移した。ちなみにRIVAは同じイゼーオ湖で1842年に創業している。

Airon Marineも含めこれらのボート ビルダーは創設期には共通して木造の小型レース艇をコモ湖で建造し、世界チャンピオンを獲得するなど華々しい戦績を挙げている。コモの名門ヨットクラブである「ヨットクラブ・ド・コモ」のロビーには当時のレーサーの写真やトロフィーが壁面いっぱいに飾られている。

これらのボート ビルダーは木造船からスタートしてFRP艇に移行して成功した造船所だが、コモ湖には空気の入ったハイテクのゴム素材から作られるチューブを両舷に持つRIB（Rigid Inflatable Boat）の世界的ビルダーがある。コモ湖畔ルッカに居を構えるFBデザイン（FB Design）がそれで、創設者で現社長のファビオ・ブッチ（Fabio Buzzi）は世界的なオフショアレーサーである。トリノ工科大学出の彼は、レース用に細身のディーゼルエンジンを開発したり、ボート関連の国際特許を数多く取得している。彼が生み出すRIBとFRP艇は世界中に輸出され、海軍、沿岸警備、麻薬取締等の特殊な業務艇として活躍している。また自作のレース艇で数々の記録を打ち立て、52のワールドチャンピオンに輝き、40ものワールドスピード記録を打ち立てている。

同じRIBビルダーのアルバトロ（Albatro）は1980年代にコモ湖畔で設立され、FRP製オフショア レーサーと高速RIBを製造している。サイズは28～70フィートと大型のRIBだが、それらの巨体を50ノットオーバーで走らせる。現在は事業拡大と共にコモ湖北部に造船所を移している。因みに前述のコロンボ創設者のジャコモ・コロンボもワールドチャンピオンを獲得しているし、後述するAiron Marineの創設者は兄弟と共にレーシングボートを製造し、数々のイタリア及びヨーロッパチャンピオンを獲得している。

1917年創設のコロンボ・レオポルド（Colombo Leopoldo）は、木造の小型セイリング・ヨット製造から始まり、現在では小型ランナバウトも製造していて、その歴史は100年を超えた。創設者のレオポルド・コロンボは、12歳で当時まだコモ湖畔にあったクランキ造船所で働き、船作りのノウハウを身に付けたという。コモ湖はセイリングにも最適な環境で、帆を張って優雅にセイリングする姿もコモ湖には似合っている。

コモ湖畔のAiron Marineボートヤードの対岸には、歴史的に名を馳せた豪華なヴィラや瀟洒な邸宅、5スター級のホテルが建ち並んでいる。湖畔最高のホテル「Villa d'Este(ヴィラ・デステ)」からは、ベネチアンスタイルのマホガニー製ボートをチャーターした客が、『007 カジノロワイヤル』や『オーシャンズ12』の舞台となった「Villa del Balbianello(ヴィラ・デル・バルビアネッロ)」の見学に次から次へとやって来る。撮影でコモ湖を訪れたジョージ・クルーニーはいたくこの地を気に入り、Airon Marineの対岸近くに白亜のヴィラを購入した。彼の所有するCOLOMBO 32 Super IndiosはAiron Marineの艇庫にしっかりと収まっていた。

Airon Marine造船所では、完成間近のAmx28、内装作業中のAmx34、41sport、4300T-top等、製造ラインは全て埋まっていた。5400T-topの完成艇は一昨日出荷されたとの事だ。

コモ湖はローマ時代から現在に至るまで政財界人達のヴィラが建ち並び、5スタークラスのホテルが素晴らしいリゾートを形作っているが、その発展の歴史と共に、Italian Boat Builder達もそういった人々の要望に応えるべくして、その歴史を共に歩んで来たと言える。

Airon Marine

1976年創設と比較的新興のアイロン マリン（Airon Marine）は、パオロ・モリナーリが25才の時に36フィートの木造船を作った事からスタートした。コモ湖の東レッツェノ（Lezzeno）の創業当時からのボートヤードには屋内外の艇庫と事務所を構え、固定式20トンクレーンが装備されている。木造の艇庫の木組みの壮大さに驚いていると、創設者で現社長のパオロが、艇庫内の32フィートを指差しながら、「このコロンボは対岸の白亜のヴィラの所有者となった米国の映画俳優ジョージ・クルーニーの所有艇なんだ。うちでメンテして預かっているんだが、艇庫から出て走るのは年に数回しかない」と。他のビルダー艇にも関わらず、いいボートだと褒めていたのが印象的だった。このボートヤードは基本的にパオロ夫妻が守っている。

AironのAmx28とAmx34を試乗。コモ湖は25ノット制限があるのだと言われながら、40ノットでかっ飛ばした。初秋の風が少々冷たくもあったが、眼前に現れる5スターホテルの「Villa d' Este」や、『007 カジノロワイヤル』の舞台となったヴィラ前を駆け抜ける爽快さは格別だ。ハンドルを放しても何処までも直進する走りに感動。こんなシチュエーションに自分のランナバウトを置いて夏毎に休暇を楽しめたらいいのに……と思わずにはいられないひと時だ。

Airon Marineの最新造船所はコモ市の郊外にあり、パオロの息子カミーロとトマゾが28～54フィートのオープンとハードトップの斬新な艇を作り出している。兄がセールス、弟は技術職として会社を牽引している。まさに絵に描いたようなイタリアン ファミリー ビジネスである。イタリアはマンマの国とよく言われるが、Aironの場合も母の力はあらゆる所で発揮されている。特徴あるAironのマークはマンマが考え出したと言うし、経理もしっかり握っている。造船所を訪れた時はマンマがデーンと受付に居て僕を出迎えてくれた。

生産ラインはほぼ埋まっていて、殆どの艇が内装作業中だった。Aironを試乗した時に感じた走行中の剛性の高さは、製造工程をつぶさに見て納得。まさに手作り少量生産の良さがそこここに現れていた。

その晩、ファミリー全員と夕食を共にした。化粧直しして着飾ったマンマの美しさと威厳は飛び切りだった。ファミリーの皆が優しく信仰深く、これぞイタリアン ファミリーと感心させられたと同時に、この様な人達から素晴らしいボートが作り出されるのだと納得しながら、"Viva la famiglia" と思わず心に呟いた。 ***P.B.***

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。